

里地里山で遊び、学ぶことによる里山整備

特定非営利活動法人 備前プレーパークの会

活動の目的

里山の資源を用いた遊びや学びの機会を設けることで、人の手が入らなくなった里地里山の現状や課題に目を向ける。そして、地域住民だけでなくこの地に集う人の力で手入れをし、心地よい里山の環境で人も森も育ち合うことを目的とする。

活動の内容及び経過

○小刀教室/草木染め等

遊びの達人をお招きし、草木染めや保存食づくり、おもちゃづくりなどを行った。特に年5回継続して実施した小刀教室では、小型ナイフ『肥後守（ひごのかみ）』やのこぎり・ナタなどを用い、竹や木の枝などから遊び道具を生み出していった。最初はおぼつかない手つきの子どもたちも、回を重ねるごとに道具の使い方が上達した。里山に入り竹を伐り倒して適度な長さに切り、ナタで割り、ナイフで削って、弓矢や凧を作った。これらは子どもたちの間で人気の遊びとなった。今では自主的に里山に入り素材を集め、道具を操り、思うままに遊び道具を作れるようになっている。

○里山の手入れ

林業経験者指導のもと、小径木の間伐や笹の下草刈りなど、保護者を中心に森林整備を行った。作業後の光が入る森に、「こんな良い場所があったのか!」との感想も聞かれ、整備後は新たな子どもたちの遊び場として活躍している。

○森の音楽会/森の子育て勉強会/竹筒ごはんの会

森の音楽会では、木や竹で作られた西アフリカの太鼓『ジャンベ』のワークショップを実施。ジャンベに合わせて、自由にリズムを刻んだり、ダンスが始まったりと、森の中での心地よい時間が流れた。後日、切った竹に風船や皮革を張って楽器を自作する人も現れ、音楽会での時間がそれぞれの暮らしへと広がっていった。また子育て勉強会では、森の中で遊ばせる機会だけでなく、その場で一緒にいる大人の関わり方が大切になってくることをお話いただいた。参加者は「子ども（人）は思い通りにならないこと」「気持ちに寄り添いあるがままを認めること」をロールプレイ形式で学び、日ごろの子育てに活かそうと深い学びの時間となった。竹筒ごはんの会には地域の方もお招きした。「昔はかまどでご飯を炊いていた」という昔話に花を咲かせたり、小さな子どもたちの様子に微笑んだり、多世代が集う和やかな時間となった。



〈実施スケジュールと参加者数〉

6月12日（水）初めての小刀教室 参加者15人
7月19日（金）小刀教室「竹笛・水鉄砲づくり」参加者13人
8月25日（日）森の整備 参加者19人
10月 2日（水）小刀教室「鉛筆づくり」参加者17人
10月 8日（火）草木染め 参加者33人
11月 3日（日）森の音楽会 参加者29人
11月26日（火）竹筒ごはんの会 参加者36人
12月11日（水）小刀教室「凧作り」参加者17人
1月25日（土）森の子育て勉強会 参加者 31人
2月 5日（水）小刀教室「弓矢づくり」参加者17人
のべ参加者227人

活動の成果・効果

本事業をきっかけに、遊びの素材（竹や小枝、木の実等）や薪を集めるため里山へ入る機会が格段に増えた。参加した保護者からは「おもちゃって作れるんだ」とか、「周辺に（遊びに使う）素材がたくさんある!」などの感想も聞かれ、技術や知識の習得だけでなく、様々な気づきを得ることができたと感じた。また里山へのごみの投棄や獣の被害など、様々な課題や現状にも触れることができたうえ、おのずと里山に手が加えられ整備にもつながった。

今後の課題と問題点

今回、上述のように参加者の意識は里山に向かい、ある程度整備も進んだ。しかし、人の手の加えられていない里地里山は広範囲にわたるため、地区住民との協力体制が重要であるうえに、長期的かつ継続的な取り組みが必要であると感じている。

●代表者：北口ひろみ ●所在地：備前市久々井
●TEL：0869-93-4503 ●E-MAIL：bizen_playpark@yahoo.co.jp
●URL：https://bizenplaypark.org/
●設立年：2005年 ●メンバー数：15名